

園芸生産学特論Ⅱ (2 単位)

担当者氏名 河合義隆

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

前期課程においては、これまでの学部の諸講義・実験・演習や卒論研究で得られたことを一層深化させ、園芸作物の効率的な高品質・安定生産の展開を目指して、生産・技術上の問題点や研究成果に関する高い学識を磨くと同時に、実学的で独創的な修士論文研究の展開に結びつくことを学習する。園芸生産学特論Ⅱでは園芸生産の研究成果などに関する高い学識を磨くことを目標とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

園芸学	園芸研究	園芸生産	高品質生産
安定・持続生産	省力的生産	心身の健康	環境制御

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	園芸生産学特論Ⅱの緒論	講義の目的、進め方、概要、園芸作物の特性	本講義のねらいは、前期課程で実学的・独創的研究を展開するために、園芸生産に関する研究の現在までの進捗状況などを学習することである。事前の学習により授業内容に関連する基礎的な部分について予習をし、講義終了後は配付された資料等をみて復習すること。
2	園芸作物の生理生態①	生長・花芽分化・果実成育	
3	園芸作物の生理生態②	花成誘導	
4	園芸作物の生理生態③	抽だい現象、春化、低温の影響	
5	園芸作物の生理生態④	植物組織と各器管の形態	
6	園芸生産学における研究手法①	QTL 解析の基礎	
7	園芸生産学における研究手法②	QTL 解析の野菜園芸学への応用	
8	園芸生産における技術研究①	果樹の技術研究の現状	
9	園芸生産における技術研究②	野菜の技術研究の現状	
10	園芸生産における技術研究③	花卉の技術研究の現状	
11	園芸生産における技術研究④	植物ホルモンによる開花結実調整	
12	園芸生産における技術研究⑤	種子繁殖と栄養繁殖	
13	園芸生産における技術研究⑥	土壌微生物との共生関係とその利用	
14	園芸生産における最近の生理生態の研究成果①	園芸植物の生育・開花生理、花成ホルモン	
15	園芸生産における最近の生理生態の研究成果②	園芸植物の結実生理	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)

新園芸学全編/園芸学会(1998年)/Horticulture in Japan 2006/園芸学会(2006年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

小テスト (10 点)、課題レポート (90 点) の成績に基づき、受講姿勢も考慮して評価する。

◆オフィスアワー

毎週火曜日の 9 時～11 時の間、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

適宜、資料を配付する。自ら学ぶという積極的な態度で授業に出席してほしい。